

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の理念の基、グループホームとしての理念がある。職員は実践できるように努力をしている。 | 理念は利用開始時に本人と家族に説明している。誰にでも分るように玄関に掲示し、スタッフ会議で唱和している。特に個人の尊厳を大切に、安心して過ごせるホームを目指し取り組んでいる。理念にそぐわない行動や発言があった場合には職員個人のプライドを保ちつつ話をし、良い所を伸ばすよう配慮し実践できるように取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している | 施設での行事の際は、地域の方に呼び掛け交流をして、グループホームの見学もしていただいている。また、学校行事(運動会・音楽会)にも参加させていただいている。 | 複合施設として区費を納め一斉清掃等の活動に参加している。広報や回覧板も回り、公民館で開催される文化祭にも参加し地域の人々との交流を図っている。近くの小学校の金管バンドが来訪し、演奏を楽しく聞き交流したり、保育園児も遊びに訪れ利用者と交わりお互いに喜んでいるという。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | にしうち敬老園としては要請が無いので今のところ実施していない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 利用者の状況や、活動報告を行い、推進委員の方々には、意見をいただいている。(年6回予定) | 年6回、奇数月に、家族代表、自治会長、民生委員、市高齢者介護課職員、職員などが参加し実施している。現状報告を行い、課題や問題点について意見交換がされている。職員にはスタッフ会議で内容を報告し、連絡ノートにも記載し家族の希望にも沿えるよう取り組んでいる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市の担当者と主に運営推進会議を通じて連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。行政の取り組みについても意見を頂いている。 | 管理者が法人のグループホーム部会部会長であり、介護報酬改定に際し運営についての対策等、市窓口で様々な相談を掛けた。介護認定の調査時には家族と相談の上、認定代行も行っている。介護相談員が3ヶ月に1回来訪し、利用者の話を聞いたりと一緒にレクリエーションを行ったりし報告もいただいている。 | |
| | | 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束について勉強会を実施して、職員の意識を高めている。利用者の安全を考えながら、自由に行動できるよう配慮している。 | 法人主催の身体拘束ゼロに向けての研修に全員出席し認識を高めている。現在、身体拘束を必要とする利用者はいないが、玄関はできるだけ開錠しており、常にこまめな安否確認をするよう心掛けています。帰宅願望の強い利用者に対しては気が済むまで寄り添い、話を聞き、散歩をするなどの支援に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 高齢者虐待防止関連法の勉強会を実施し、職員の意識や知識を高めている。職員は自分の行動を振り返り、高齢者虐待の徹底防止に努めている。 | | |

グループホームにしうち敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護事業や成年後見制度についての学習会等への参加に努めている。(成年後見人を利用者されている方がいる) | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項の説明等詳しく行い、納得した上で契約の手続きを進めている。質問には随時お答えして、安心していただけるように配慮している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者は、介護相談員が来園された際に1対1で話を聞いてもらっている。家族には面会時や電話にて利用者の状況を伝えている。また、写真やお便りで暮らしぶりを伝えている。出された意見、要望はミーティングで話し合い、反映させている。 | 要望等を表現出来る利用者は三分の二ほどで、三分の一の方は職員が声掛けし反応を見て判断し、利用者一人ひとりの状態を連絡ノートに記載後、日々の申し送りで職員間の共有をしている。家族の来訪は近くの方で週2~3回あり、来訪時には要望等を聴いている。利用者の状況を家族あてのお便りで毎月細かく報告しているので喜ばれている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃からコミュニケーションを図るように心掛け、各職員の意見を聞き、業務改善に努め、運営に反映させるように努めている。 | 月1回スタッフ会議が開かれている。運営推進会議の内容も報告されており、利用者を中心に考えた話し合いが行われ、全職員が活発な意見を言える雰囲気であるという。会議の内容は議事録に残され支援に役立てられている。人事考課制度が取り入れられており、職員は期初に立てた個人目標を基に3ヶ月に1回自己評価を行い、管理者と進捗状況について話し合い、複合施設全体の施設長との個人面談も年1回あり要望・提案などを述べている | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の資格取得に向けた支援を行い、職員1人1人に役割や分担を持ってもらっている。向上心を持って働けるような職場環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修に積極的に参加できるようにしている。必要に応じて勤務調整を行っている。職員ノートがあり各自が目標を持ち、管理者は定期的に評価をして、向上心につながるように配慮している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他法人や同法人のグループホームと相互訪問や事例検討会を行い、親睦を図っている。また、活動を通じて出てきた意見をケアに取り入れ、サービスの質の向上に努めている。 | | |

グループホームにしうち敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービス開始以前に本人と面談を行い、本人自身の訴えや願いをよく聴いて、反映できるケアに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の要望を踏まえて、初期の段階から困っている事を聴き、安心して利用して頂けるよう努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初期の段階ではまず本人、家族の話をしっかり聴いて、内容によっては他のサービスを勧めることも考え、対応している。職員間での情報の共有にも努め、必要とされるケアについて検討している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の想いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ること努めている。傾聴、受容、共感の姿勢で支え合える関係作りに留意している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人の日々の様子や変化等は、家族に報告し共有して、支援の方法、対応について意見をお聞きし、対応に反映させている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 友人や家族との面会を大切にしている。家族との外出や馴染みの場所に出かける機会を作っている。 | 友人、知人の来訪があり、日誌にはどなたが見えたのか記録に残し、年賀状等を出す時に役立てている。馴染みの場所に出掛けることも徐々に減りつつあるが、ボランティアの「うちむらっこの会」と家族の協力をいただき外出することもある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 仲の良い利用者同士が交流を持てるように席の配慮をしている。孤立する事が無いように、その方の居場所を作り、声掛けに配慮して、楽しめる環境作りに努めている。 | | |

グループホームにいうち敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 相談があれば対応する。終了の際に利用者や家族にその旨をきちんと伝えるよう心掛けている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 個々の希望や意向を把握出来るよう、日々関わりを持ち、探よう努めている。ご本人の希望に沿った対応を心掛けている。困難な場合は本人の目線にたったケアに努めている。 | 三分の二の利用者が意思表示の出来る状況であるが、日々表情を見、意思を尊重したケアを行うよう心掛けている。職員5名で利用者9名を担当しているが、全職員で情報を共有し歌を唄ったり体操をしたりして利用者の思いや希望に合わせたケアを行っている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族に尋ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。今まで関わりのあった機関などにも情報の提供を依頼している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々、勤務交代の際の申し送りや記録によって情報共有し、対応を考えている。月に一度スタッフ会議を実施し、それぞれの方の現状の把握に努め、その現状に対する支援の仕方を検討している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 計画作成担当者等を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した介護計画を作成している。 | 担当制を実施しており、職員1人で1~2名の利用者を担当している。介護計画の見直しは3ヶ月に1回実施しており、見直し時には利用者ごとの状況をアンケートノートに記入しスタッフ会議の席上で全職員で検討し、本人や家族の意見もいただき計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 些細な事も個別記録に残し、その場になかった職員にも情報が伝わるように努め、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。連絡ノートを作成して迅速に対応出来るようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 併設のデイサービスの協力のもと、希望者には行事やレクリエーションに参加して頂いている。 | | |

グループホームにしうち敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 研修ボランティアや学生ボランティアを受け入れている。地域やOBボランティアの協力で、外出もしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。各医療機関からの情報は個別に記録と共に保管し、皆で共有している。 | 利用前からのかかりつけ医にかかっている方は若干名で、殆どの利用者はホームの協力医での対応となっている。近くの病院と協力関係にあり、月1回の往診と訪問看護師の月3回の来訪で健康チェックを行っている。日々の健康状態は書面に落とし、家族と医師に連絡している。歯科については利用前からのかかりつけ医で対応しているが希望すれば協力医の往診も可能となっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職は利用者の日常管理に努め、必要に応じて訪問看護師に相談し、医療との連携を図っている。迅速に対応できる様に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院された際には、医療関係者と十分に情報交換をし、できるだけ早期に退院が出来るよう努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 9月に看取りを行った。約1年前よりターミナルで、主治医・訪問看護師と連絡を取り、対応をした。医師に病状説明をお願いし、家族との面談により方向性を決定した。職員間でも情報を共有し、穏やかに最期を迎えられるよう支援した。 | 終末期ケアを念頭に置いた支援を行っている。9月に看取りを行い訪問看護師と連携を取りつつ、全職員、気持ちを込めた接し方をし、最期の時を迎えられるよう支援した。ホームがどの様に対応したかは遠方にお住いの家族からの礼状を読むと手に取るように見て取れる。その礼状の文末には「感謝の心は言い尽くせません」と結ばれている。このような気持ちが他の利用者や家族にも安心感を与えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 毎年、消防署による救命救急の勉強会を実施し、訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回防災訓練を実施し、迅速な避難が出来るように努めている。 | 同じ敷地内のデイサービスと合同で年2回防災、通報訓練を実施している。ホーム内でも夜間想定避難訓練を実施し、三分の一の利用者を隣のデイサービスに避難させた。防火管理者が地域の防災訓練に参加し地域との防災協力関係を深めている。 | |

グループホームにしうち敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの尊厳を大切にし、誇りを損ねない事を配慮した上での関わりを大切にしている。集団生活の中でプライバシーに関しては絶対に守られているとは言えない所がある。 | 呼び名は尊敬の気持ちを込めてさん付けでお呼びしている。人権尊重についても法人主催の人権啓発研修でプライバシーに関する知識を深めている。時として言動等が基本から外れそうになる時もあるが、そのような時にはホームの基本活動目標である「4つの心」を思い出し振り返りをしている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者が思いや希望を言える雰囲気作り心掛けています。また、意思表示出来ない方には、職員の言葉掛けに対する表情等から想いを理解するように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々、笑顔が見られるように柔軟な心で関わり、希望にそった支援をしている。職員の業務遂行のため、ある程度は職員側のペースになってしまう事がある。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 2ヶ月に1回、外部からの理髪店の受入を行っている。行事の時などは、その場に合った服装で参加して頂けるよう支援している。化粧や装飾品も使用し、その方らしさを大切にしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者それぞれに出来る事(野菜の皮むき等)を行ってもらっている。好みや、調理の仕方なども相談しながら食事作りをしている。旬の食材も取り入れて、季節を感じてもらえるように配慮している。 | 食形態はキザミ、トロミを交え、自力摂取の方が三分の一で、一部介助の方が三分の一という状況である。お手伝いの出来る利用者が半数ほどおり、下ごしらえなどを行っていただいている。献立は法人本部の栄養士が立て、調理、食材の調達は利用者の希望も取り入れホームで行っている。野菜を中心に差し入れも多く、旬の物を使った料理にも心掛けています。誕生日は赤飯、ちらし寿司などで祝い、クリスマスにはロールケーキ等で楽しんでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養のバランスを考える一方で、季節の食材をメニューに取り入れるなど、嗜好にも配慮している。水分量も確保出来るように、むせのある方にはトロミ剤やゼリーを使って対応している。形態にも考慮している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアの重要性を学び、ご自分で出来る方には声掛け、見守りし、支援が必要な方には義歯を外してケアをさせて頂き、口腔内の清潔に努めている。 | | |

グループホームにしうち敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者個々の必要性に応じ、排泄チェック表を作成し、そのパターンに合わせて声掛け、誘導を行っている。 | 自力で排泄できる方と一部介助の方、全介助の方がそれぞれ三分の一で、布パンの方が若干名、オムツの方も若干名、リハビリパンツ使用の方が三分の二という状況である。自力の方以外については排泄チェック表を作成しパターンを掴み、声掛けと表情で判断し対応している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防のため、食事メニューを工夫している。下剤を使用する場合は、その時の状況に合わせた対応をしている。訪看や医師にも相談をして、その方にあったコントロールが出来るように努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 出来る限り本人の希望に合わせて入浴出来るよう支援している。また、入浴を嫌がる利用者には安心出来るような言葉掛けの工夫をしたり、家族の協力を得るなどして対応している。DSの協力もあり、チェア浴も行っている。 | 24時間の温泉掛け流しでゆったりとした浴槽が設置されている。入浴は週2回実施され、温泉を楽しむと同時に冬季には「ゆず」で匂いも楽しんでいる。自立の方が三分の一、一部介助の方が若干名、全介助が半数ほどで、職員は一人ひとりに合わせ支援している。入浴拒否の方がいるが家族の協力も得ながら入浴していただいている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夕方から就寝に向けて、安心した時間の過ごし方が出来る支援に努めている。寝具等にも気を使い、就寝リズムが安定するよう環境を整えている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳を活用し、内容を全職員がわかるように徹底している。また、変化等が見られる場合は随時記録をし、医療とスムーズな連携が図れるよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 生活歴や得意な事を理解したうえで、利用者が充実した一日を過ごせるよう支援している。また、個人の能力に合わせ、やりがいを感じて頂けるような役割を提供している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望に対し、出来る限り外出が出来るようにしている。また車椅子等を使用し、歩行困難な方も外に出られるよう工夫している。また、家族やボランティアの協力もあり、定期的に外出をしている。 | 自力歩行の方がほぼ半数、車イスの方が三分の一、手引き歩行の方が若干名という状況である。天気の良い日には敷地内にある「観音様像」のまわりを外気浴を兼ね散歩している。計画を立てて外出行事も行っており、近くの山やダム湖へ花見やひまわり見物、紅葉狩りなどに出掛けている。その他、春には外気浴も兼ねホームの外で食事会を行ったり、秋には近くの小学校の「かかしコンクール」の見学などもしている。他に車でドライブにも出掛け喜ばれている。 | |

グループホームにしうち敬老園

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在は金銭の管理をしている利用者はいない。日常生活に必要な物は家族や職員が購入している。商店が遠い事もあり、買い物をするといった機会もないのが現状である。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話をかけたいという要望があれば電話を貸している。年賀状を出す方がおり、ハガキの購入や投函の支援をしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が快適に暮らせる環境作りに配慮している。季節に合った装飾品を飾って、照明、材質等も温かみを感じられるものを使用している。花も飾り季節を感じてもらえるように支援している。窓からの眺望が良いので喜ばれている。 | 全体的にゆったりとしたスペースが取られ利用者がくつろいでいる。廊下も広く、各居室のドアも大きく安全への配慮が見て取れる。事務所は共用部分や各居室を見渡せるようにオープンスペースになっていて利用者の安否確認も容易である。生け花も各ポイントに飾られ気分を和らげている。浴室は温泉掛け流しで大きな浴槽が備え付けられている。共用部分の冷暖房は床暖房とルームエアコンで快適である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 利用者自身がくつろげる場所を確保している。(居間、日当たりの良い廊下、寛げるソファ等) | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族の協力もあり、利用者個々に合った居室作りに取り組んでいる。(以前から使用されている馴染みの家具や家族の写真等) | 冷暖房はルームエアコン完備で快適である。各居室には外出時の思い出の写真や家族の写真、自分の作品等、思い思いの物が飾られている。また、テレビ、家具なども持ち込まれ、自由に生活感が感じられる居室となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレには分かりやすい表示をしている。バリアフリーになっており、廊下には手摺りを備え付け、安全な生活が送れるよう配慮している。移動時にはご本人に理解できるような声掛けを行い、出来るだけ自力を活かせる様に支援している。 | | |